

N-15

奈良公園周辺における P&BR 試行実験

奈良県土木部 ○正会員 森川 裕一 中澤 一訓
(株)建設技術研究所 正会員 神野 裕昭 吉岡 直也

1. はじめに

奈良公園周辺では、春、秋の観光シーズンの休日には観光交通が増大し、交通渋滞が頻発するとともに、駐車場不足が顕在化している。さらに、駐車場を捜す迷走車両が交通渋滞を助長しており、観光交通サービスの低下を引き起こしている。これに対し奈良県では、シルク博を契機に平成2年以降、奈良公園の北側に奈良阪駐車場（駐車容量300台）を設け、パーク&バスライドシステム（以下P&BRシステムと略す）を導入し、北および西からの交通需要と駐車場不足に対応してきたが、南から流入する交通需要には十分に対応できていなかった。本報告は、南からの流入交通に対応すべくH8年秋に実施したP&BR試行実験の概要と結果、さらにP&BRシステムを整備・拡充に伴う課題を明らかにしたものである。

2. 試行実験概要

表-1に、秋の観光シーズンのピークである「正倉院展」に併せて実施したP&BR試行実験の概要を示す。

図-1に、試行実験に利用した奈良交通バス車庫跡地である大安寺駐車場を示す。大安寺駐車場は、奈良公園の東南約2kmに位置しており、休日は周辺道路の混雑は少ない。試行実験実施時には、同図に示す誘導ルート上の主要交差点等約30カ所に、案内誘導の立看板を設置するとともに、西名阪自動車道郡山ICで案内誘導のチラシを配布し、さらに、県警道路情報板にP&BR駐車場実施の情報を流した。

3. 試行実験結果

図-2に実験期間における大安寺駐車場の利用台数を示す。図中の駐車需要推定値は、事前のアンケート調査結果をもとに求めた2項ロジットモデル型P&BR選択確率と、総駐車需要（H7秋、H8春）の実績から推定したものである。ピークの11/3には、事前の予測を大きく上回る利用車両があり、奈良公園周辺に流入する車両を削減できた。なお、この間、併設している奈良坂駐車場でも127台～321台の利用があった。

図-3は11/3のP&BR駐車場の利用時間分布を示したものである。同図には同時に調査した奈良公園周辺の主要駐車場（8カ所）および、奈良公園周辺の主な街路の路上駐車時間分布も示している。大安寺駐車場では、主要駐車場がピークとなる12時前後から利用車両が急増し、13時には駐車台数が駐車容量の300台を越えたため、その後も利用車両の

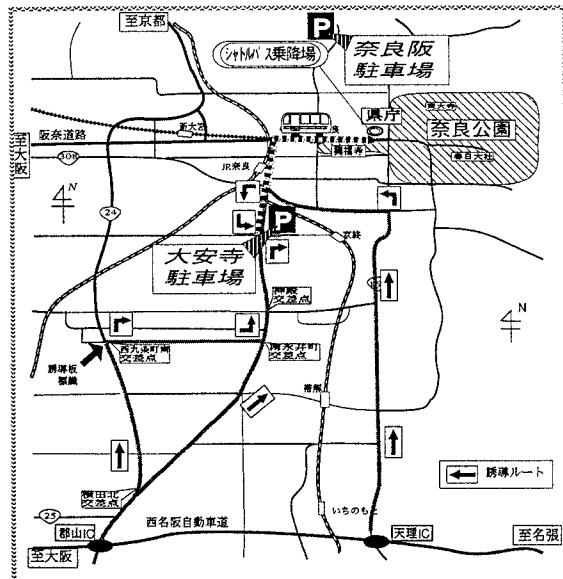


図-1 大安寺駐車場と誘導ルート

表-1 試行実験概要

試行日程	平成8年10/27(日),11/3(日),11/4(月),11/10(日)
時間	午前9時～午後5時
駐車容量	約300台
駐車料金	900円/日・台（シャトルバス利用含む） 参考：登大路駐車場1,000円/日・台
シャトル	経路：P&BR駐車場～県庁奈良公園内L=2km 所要時間：約10分
バス	運転間隔：15分間隔（ピーク時は随時）

キーワード：パークアンドバスライド、観光交通、駐車場

連絡先：奈良県土木部 〒630 奈良市登大路町 Tel.0742(22)1101 内線4165 Fax.0742(27)5339

(株)建設技術研究所 〒540 大阪市中央区大手前1-2-15 Tel.06(944)7884 Fax.06(944)7894

増加が見込まれたが、13時以降は駐車場への誘導を停止した。一方、周辺部からの流入時に誘導していない奈良坂駐車場では、利用車両の増加は緩やかであり、大安寺駐車場へのルート上での誘導の効果が現れたといえる。

4. 利用者の意識と評価

図-4にP&BR利用者に対するヒアリング調査結果を示す。①駐車場を決めた理由は、「他の駐車場が満車」と「やむを得ず」を合わせて4割、「公園付近の渋滞回避」が3割弱、「誘導された」3割となっており、図-3に示した一般駐車場に比べ利用のピークが遅れる傾向とよく対応している。②駐車場への誘導に関しては、駐車場を路側の立て看板で知った人が7割弱と、道路情報板の1割に比べ非常に多くなっている。また、他の駐車場を探さず、直接駐車場にきた割合が9割を越えており、先に述べた利用時間特性も含め案内誘導が効果的であったといえる。③駐車場の位置については3割が「便利」、「普通」を加えると8割を越えており、駐車位置については適切と判断できる。④駐車料金は「安い」と「適当」をあわせると8割に近く、概ね適切と考えられるが、今後一般駐車場等との料金調整について慎重に検討する必要がある。⑤今後の利用意向は、「次回も利用する」との回答が7割を越えていることから、今回の試行実験が利用者から比較的高い評価を受けたといえる。

5. おわりに

P&BR 試行実験の結果、事前の予測を上回る利用車両があった。奈良公園周辺部への流入車両を削減できたことから、駐車場不足の緩和と、交通渋滞の緩和（別報¹⁾に定量的な評価を示す）に、一定の効果があったものと考えられる。さらに、観光車両の適切な駐車誘導に効果的に寄与したものである。また、利用者の評価も比較的高いことから奈良公園周辺の観光交通対策としてのようなシステムの有効性が明らかになった。今後、P&BRの整備・拡充を図るとともに、観光交通サービスの一層の向上に努めていきたいと考えている。

参考文献：1) 森川・中澤・中平・神野：交差点容量を考慮した交通量配分シミュレーションの試み，土木学会第52回年次学術講演会（投稿中），1997.9

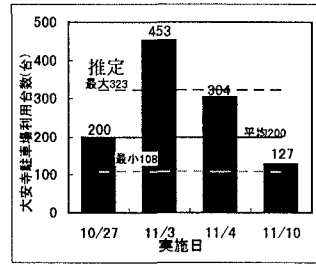


図-2 大安寺駐車場利用台数

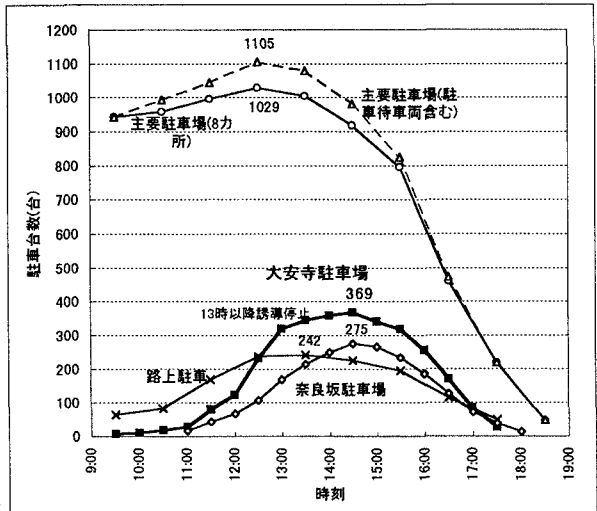


図-3 P&BR 駐車場の利用時間分布

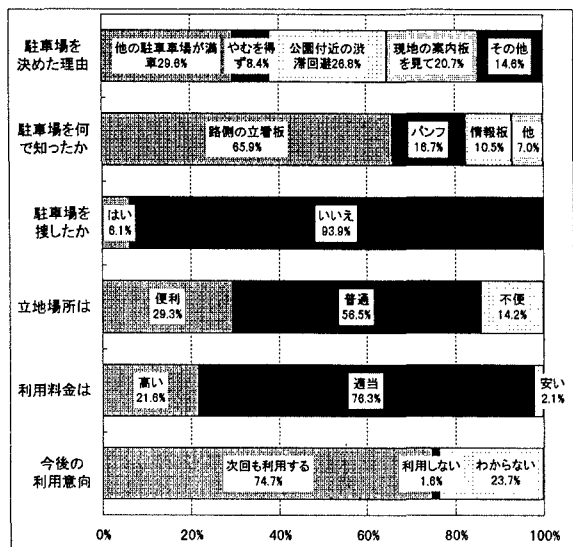


図-5 P&BR 利用者の意識